

“止まっている時間”は、リビングルームの拡張空間に

EV（電気自動車）のコンセプトモデル「LDK+」を 「SHARP Tech-Day'24 “Innovation Showcase”」で公開



「LDK+」イメージ（左：外観、右：車内）

シャープは、EV（電気自動車）のコンセプトモデル「LDK+」（エルディーケープラス）を、本年9月17日（火）から18日（水）まで東京国際フォーラム（東京都千代田区）で開催する当社の技術展示イベント「SHARP Tech-Day'24 “Innovation Showcase”」で公開します。本コンセプトモデルは、鴻海科技集団^{※1}（Foxconn）と連携し、EVのオープンプラットフォーム^{※2}をベースに企画・開発。フォロフライ株式会社^{※3}の協力も得て実現しました。

「LDK+」は、車内を「リビングルームの拡張空間」としてとらえ、“止まっている時間”にフォーカスしたEVです。当社独自のAI技術「CE-LLM^{※4}」やAIoT技術、センシング技術などを活用し、EVと“住空間・人・エネルギー”をつないだ快適でサステナブルな暮らしを提案します。

本コンセプトモデルは、後部座席が後ろ向きに回転。ドアが開ると両サイドの窓に搭載した液晶シャッターが閉まり、プライベートな空間が誕生します。日常の暮らしの中で、家電を通じてAIが学習した情報をもとに、好みに応じて空調や明るさを自動で調整し、快適な車内空間を実現します。車内後方には、65V型のディスプレイを搭載。臨場感あふれるシアタールームや子どもの遊び場としてはもちろん、ひとりで集中したいリモートワークなどにも活用することが可能です。また、大画面を通じて家の中にいる家族とのシームレスなコミュニケーションも可能とし、あたかも隣の部屋にいるかのような安心で便利な空間を提供します。さらに、EVに搭載した蓄電池と太陽電池が家全体とつながり、AIが家とEVとの最適なトータルエネルギーマネジメントを実現します。万が一の災害などによる停電時には、蓄電池に貯めた電気を家庭内で活用することも可能です。

当社は、今後も人に寄り添う快適な暮らしを提案するとともに、カーボンニュートラルへの取り組みを推進してまいります。

- ※1 本社：台湾新北市、董事長：劉揚偉
 - ※2 鴻海科技集団が開発したEVプラットフォームです。
 - ※3 本社：京都市下京区、代表取締役：小間裕康。EVの開発や販売、アフターサービスのほか、充電インフラサービスなどを手掛ける企業です。
 - ※4 「Communication Edge-Large Language Model」の略。大規模言語モデル（LLM）をエッジAIとして活用する当社独自のAI技術です。端末で処理を行うためリアルタイム性が高く、より自然なコミュニケーションが可能です。エッジAIで回答できない内容は、クラウドAIから詳細な情報を取得します。
- 本文に記載の機能やデバイスのうち、今回出展するコンセプトモデルには一部搭載していないものやモックアップでの展示のものがあります。
 - シャープ株式会社は、商標「LDK+」を出願中です。
 - 「CE-LLM」は、シャープ株式会社の登録商標です。
 - AIoTは、AI（人工知能）とIoT（モノのインターネット化）を組み合わせて創った造語であり、シャープ株式会社の登録商標です。

【 ホームページ 】 <https://corporate.jp.sharp/>（画像ダウンロード <https://corporate.jp.sharp/press/>）
【 本 社 】 〒590-8522 大阪府堺市堺区匠町1番地
【 お客様お問い合わせ先 】 sharp_ev@mail.sharp

■ プロモーションムービー

「LDK+」のプロモーションムービーを、YouTube のSHARP公式チャンネルからご覧いただけます。

<https://youtu.be/LU6RIE1VCSk>



■ 「SHARP Tech-Day」特設ウェブサイト

「SHARP Tech-Day'24 “Innovation Showcase”」に関する情報や参加登録は、以下の特設ウェブサイトをご参照ください。

<https://corporate.jp.sharp/techday/>

